
6. <水球陣>OB 戦

H26.1.25 対東大 OB @東大プール

東大 1 4 1 2 計 8

東大 OB 3 0 2 3 計 8

得点者：現役：浪間(2)、池亀(3)、梶原(1)、小池(1)、藤目(1)

OB：轟さん(2)、三宅さん(5)、下東さん(1)

2014 年初めての試合である OB 戦。この試合は極めて重要な意味を持つ。2 月から始まる東日本リーグに現役のみで挑むことを宣言したからだ。この OB 戦を勝利し、堂々と東日本リーグに出場したい。

第 1 ペリオド

大勢の競泳陣が見守る中、OB 戦第 1 ペリオドが開始された。開始早々 OB チームは退水から三宅さんがハンツーで得点する。現役チームはカウンターを決めきることができずなかなか得点につながらない。両チーム得点が伸び悩む中再び OB チームは再び三宅さんのハンツーによって得点をあげる。このまま離されるわけにはいかない現役チームは、退水セットで池亀からのパスを藤目が叩き込み待望の得点をあげる。第 1 ペリオド残り 2 分、何とか追いついて終えたい現役チームであったが、逆にオフェンシブからのカウンターで轟さんに決められてしまう。その後は浪間のフローティングなどでチャンスがあったものの両チーム得点の無いままこのペリオドを 1 - 3 で終える。

第 2 ペリオド

第 1 ペリオドから 2 点も離されてしまった現役チームはこのペリオドで最低でも同点に追いつて後半につなげたいところだ。開始 2 分間は梶原や浪間のシュートがあったものの両者無得点のまま進行した。だが、下がりのディフェンスをする OB チームに対して池亀が 8 メートル以上離れた地点から強烈なミドルを決める。その後退水からのカウンターを浪間がきっちり決めきりついに同点に追いつく。OB チームにも何度かチャンスを作られるがキーパー疋田のセーブにより得点をあげさせない。このペリオドも後半戦に差し掛かったところで池亀が再びミドルを左隅に叩き込む。残り時間も僅かとなりもう 1 点が欲しい現役チームはコーナーから小池がハンドアップに当てながらシュートを決める。このペリオ

ドを5-3で終えた現役チーム、この流れを後半戦でもキープしていきたい。

第3ピリオド

現役チーム2点リードで迎えた後半戦、早速浪間が梶原からのパスをバックシュートでさばき得点する。このまま引き下がってくれるOBチームではない。カウンターから轟さんの逆パスを三宅さんがハンツで決める。その後も2度の退水によりピンチを招くが堅実なディフェンスにより得点を許さない。逆に現役チームも石田から梶原へのハンツなどチャンスを作るものの得点を伸ばせない。1-1で終わるかと思われた3ピリ、三宅さんが5メートルシュートをループで決め6-5となったところで第3ピリオドを終える。

第4ピリオド

2点リードで迎えた第4ピリオド、先シーズンから多くの試合でこういう展開から惜敗してきた現役チームはこの試合を落とすわけにはいかない。開始早々トップ抜けからのカウンターのチャンスを2度も潰してしまい微妙なながれで始まった4ピリであったが、セットにおいてOBチームのディフェンスにミスがあり池亀がハンツを叩き込む。さらに梶原がトップ抜けから得点し、3点差になる。試合も終盤、このまま勝ちきりたい現役チームであるが後半に入ってバックを務めることが多くなった藤目が永退してしまい東大チームはスタメンを1人欠く状態となる。残り3分3点差、この危機は正に東大チームの真価が問われる局面だ。この退水で下東さんが得点し2点差。リスタートからの東大の攻撃はチャンスを作れずに終わり、逆サイドで抜けた轟さんがそのまま得点し1点差。ここで1点が欲しい現役チームだったが石田のシュートが惜しくも枠外に消え、得点できない。逆に三宅さんの5メートルシュートで遂に同点に持ち込まれる。その後も常にOBチームに押され続け何とか同点で試合を終える。

OB戦は8対8の引き分けという双方の面目を保つ結果に終わった。もちろん現役としては勝って東日本リーグにつなげたかったため悔しい結果である。今後の集中練で基礎力及びチーム力を磨き何としてでも東日本リーグ1部残留を決めたい。最後に、OB戦に参加してくださった許さん、永岡さん、戸根川さん、林さん、久保田さん、轟さん、三宅さん、田丸さん、飯塚さん、堀江さん、下東さん、只野さん、有吉さん、応援にいらして下さった菜々さん、圭奈子さん、裕美子さんに感謝の意を述べさせていただきます。また、競泳陣の皆さん応援ありがとうございました。

(文責 石田慶太)

